

情報通信審議会 情報通信技術分科会
衛星通信システム委員会（第45回）会合 議事要旨

1 日時

令和6年2月5日（月）16時00分～16時30分

2 場所

Web会議による開催

3 出席者（敬称略、順不同）

（1）構成員

井家上 哲史（主査）、森川 博之、梅比良 正弘、加藤 寧、児玉 俊介、加保 貴奈、
寺田 弘慈、豊嶋 守生、藤井 威生、三浦 佳子、三次 仁

（2）事務局（総務省）

基幹・衛星移動通信課 廣瀬課長、鮫島課長補佐、小柳係長、池原官

4 議事概要

議事に先立ち、事務局から構成員の出席状況の報告、配付資料の確認等が行われた後、以下の議題について審議が行われた。

（1）「非静止衛星を利用する移動衛星通信システムの技術的条件」の検討

資料45-1及び資料45-2に基づき事務局から説明が行われた後、以下の質疑応答が行われた。

三次専門委員：イの「衛星コンステレーションによる携帯電話向け2GHz帯非静止衛星通信システム」については、セル直径が50kmと狭くIMTと同じ帯域を使用することからサイドローブが問題になると考えるが、技術的にどの程度の実現性があるかについても議論を行うのか。

事務局：米国では既に実験が行われており、技術的実現性についてはある程度確認されていることから、その前提で議論を行うものと考えている。

梅比良専門委員：アの「高度約600kmの軌道を利用する衛星コンステレーションによるKa帯非静止衛星通信システム」については、衛星の数が多く、地球局が1つの方向にビームを発射するのではなくビームを広く運用する振って場合は静止衛星との共用は難しいように思えるが、その点について基礎検討を行っていただければ教えていただきたい。

事務局：ビームの方向は固定ではないが、事前の予備的な検討ではある程度の見込みは立っていると考えている。詳細は作業班で検討していきたい。

豊嶋専門委員：イについて、携帯電話事業者に割り当てられている周波数との関係はどうか

っているのか、検討対象の周波数と今後どのように調整していくのか方針を教えてください。

事務局：新たに周波数を割り当てるのではなく、携帯電話事業者が自らに割り当てられている周波数を使用し、地上基地局との通信と衛星との通信の両方を行うことが可能かを検討していく。今後周波数を拡大する場合も。

豊嶋専門委員：既存のシステムにそって議論をするだけでなく、新しいシステムととらえて議論することも必要かと思う。広く議論されることを期待している。

事務局：御指摘の点は留意したい。

三浦専門委員：災害時等の本当に必要なときにつながらないということがないかが消費者にとって心配な点であり、大丈夫であるのかをご説明いただきたい。

事務局：御懸念の点は起こらないように作業班にて詳細な検討を進めていく。報告書では技術的な根拠も含めて情報を提供していく。

三浦専門委員：報告書は一般の人にも伝わるよう、平易な言葉を用いて説明いただきたい。

事務局：御指摘の点は留意して進めたい。

次に、今後の検討の進め方について、資料 45-3 に基づき事務局から説明が行われ、今後、作業班を設置して検討していくことについて特段の意見なく了承された。

また、作業班の主任については藤井専門委員が指名された。

(2) その他

事務局から、「衛星コンステレーションによる携帯電話向け 2 GHz 帯非静止衛星通信システムの技術的条件」について、携帯電話と密接に関連する議題であることに鑑み、新世代モバイル通信システム委員会に対して衛星通信システム委員会で検討を開始したことを報告する旨の連絡があった。

また、次回の衛星通信システム委員会は 5 月頃に開催予定との連絡が行われた。